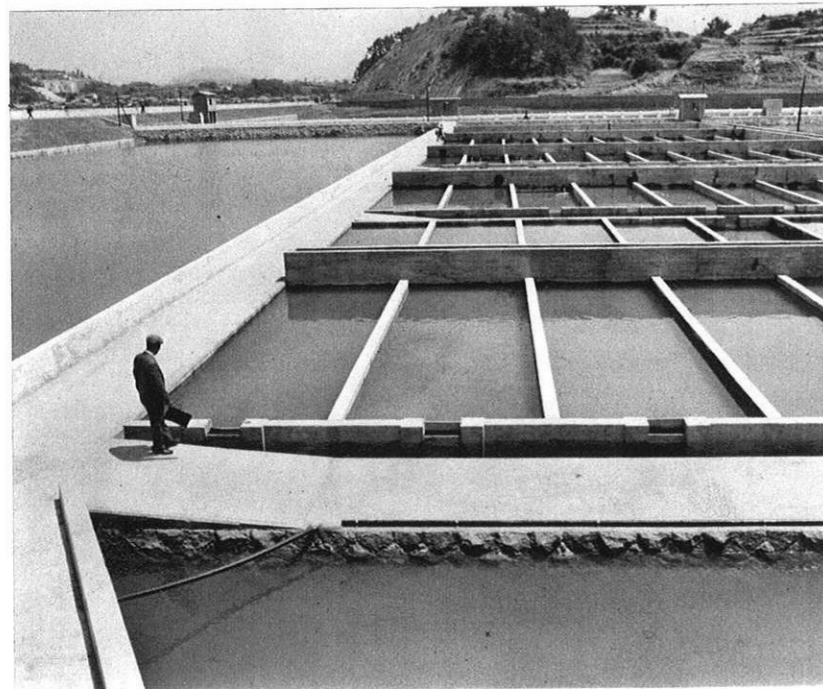


生産の拡大と合理化へ

漁業では、沿岸および沖合の漁場改善、魚族の繁殖をはかる一方、かん水・淡水蓄養殖漁業の導入、のり・真珠養殖の生産性を高めるなど“つくる漁業”への諸施策が進められている。



上・82面の屋外飼育池が、車エビ 100万尾飼育を待っている（水産種苗センター）



上・養殖三年目のハマチも、今年はグツとふえて県下で五万尾を飼育中（牛深市）
左・ミカンの新植と、共同防除・かん水施設が、並行してすすめられていく（五和町）

安定農業への体制づくり

これからの農林漁業問題の焦点は、国民経済の発展に応じて安定した経営を維持し、その従事者が他産業従事者と均衡のとれた所得をあげることだろう。このための生産の選択的拡大と合理化の推進は急務だ。
農業面においては特に構造改善が必要であり、その基盤の上に立っての自立経営農家の育成、農地の流動化、財政金融措置、経営技術指導の強化が望まれている。



上・タバコ栽培農家の集団化もめだってきた。



上・農休日やレクリエーションもふくめて楽しい計画営農



上・ビニールハウス栽培も普及してきた



下・県の経営伝習農場も施設拡充へ（城南町にて）